

## 血友病家庭療法，包括医療における

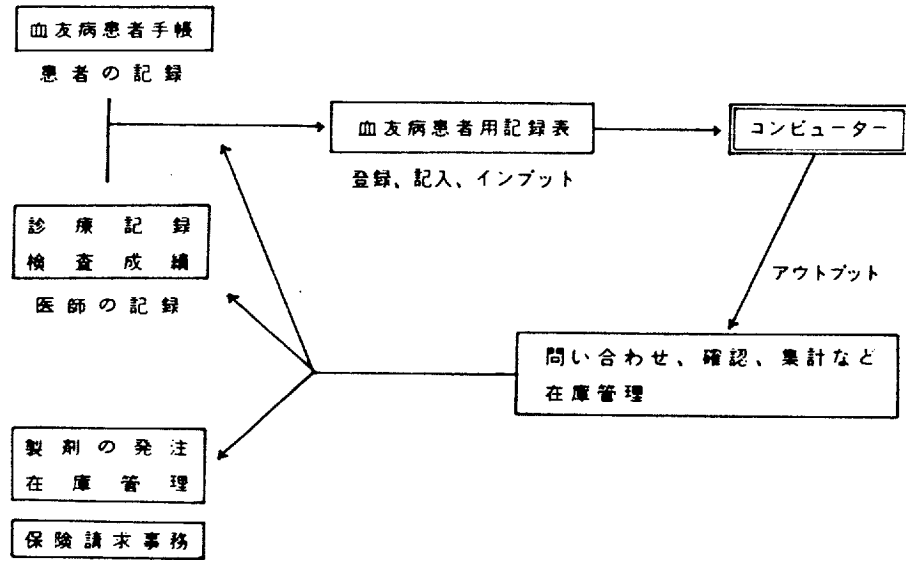
### 記録システムについて

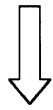
聖マリアンナ医大小児科 山田 兼雄  
稲垣 稔  
富田 幸治  
滝 正志  
三浦 琢磨  
宮地 良和

血友病治療に家庭療法を導入し同時に包括医療を行っていく上で、治療内容、出血部位、頻度、関節等の状況、あるいは検査成績などを如何に能率よく把握し、もれることなく記録し保持していくということが重要となる。我々の施設ではすでに数年来コンピューターを導入し、血友病患者専用の記録表(Medical record)に集約された包括医療の全データを記録し、必要時に速やかにアウトプットする方式を採用してきた。今回はさらにインプットを能率化するために、患者用に血友病患者手帳を配布し、出血の記録、治療の記録、検査成績等を記入し Medical record への記載を容易とした。図に示すごとく、記録は患者と医師の双方から集められ、Medical record に記入され、さらにコンピューターへインプットされる。このデータは個別の問い合わせ、確認、あるいは全体の集計、濃縮製剤の在庫管理などに使用される。患者のもつ手帳には、病名、氏名、生年月日、住所、緊急時連絡先、処置方、検査成績などが記入されているが新しいデータはコンピューターから随時アウトプットされ手帳に追加されていく。また病院事務に関しては、在庫管理の円滑化とともに製剤の発注も能率化し、保険請求事務もより正確に迅速に行われるようになっていく。

患者が固有の登録ナンバーを持っていて、いつ、どこに居ても必要な際はこのナンバーだけで患者に関するすべてのデータが問い合わせできるようにしているが、現在、我々の東京荻窪ヘモフィリアセンターの関連施設数ヶ所で試験的にオンライン方式を検討している。将来、全国の患者が、いつ、どこに居ても同じ治療を速やかに受けられるようにすることが必要となってくるであろう。

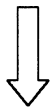
図：東京荻窪ヘモフィリアセンターにおける血友病患者記録システム





## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



血友病治療に家庭療法を導入し同時に包括医療を行っていく上で、治療内容、出血部位、頻度、関節等の状況、あるいは検査成績などを如何に能率よく把握し、もれることなく記録し保持していくかということが重要となる。我々の施設ではすでに数年来コンピューターを導入し、血友病患者専用の記録表(Medical record)に集約された包括医療の全データを記録し、必要時に速やかにアウトプットする方式を採用してきた。